



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから
出会いを創造し活性しよう

プログラム

- | | | |
|--|-------------------------------------|----------------------|
| ●本日
「カムイフ公園・お花見例会」 | 会員誕生日
5月11日 中川 勝美 | 結婚記念日
5月11日 松村 孝二 |
| ●次週予定
「R1第2510地区 第1グループ
インターシティミーティング」 | ご夫人誕生日
5月9日 佐藤 裕子
5月10日 行徳智歌子 | |

No. 2325
第40回 5月7日



前例会

会員総数	47名
出免会員	3名
欠席会員	16名
出席率	63.64%

前々会

第37回 4月9日	
欠席会員	10名
メイクアップ	1名
修正出席率	79.07%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 澤井前会員のご家族より、葬儀のお礼として高額のボックスを戴きました。
- 吉田清治会員が体調不良のため留萌市立病院に検査入院されました。
- 羽幌RCより第2510地区第1グループ合同研修会・交流会の詳細がとどいております。

幹事報告

- 1) ガバナー月信4月号が届きましたので理事役員に配付いたします。
- 2) 2007年度版手続要覧の申し込みを受け付けいたします。必要な方は幹事まで。
- 3) 次週例会は定款第5条第1節(C)項により休会です。お間違いないように。

愛好会

ゴルフ愛好会 大嶋愛好会幹事
4月29日(火)9時30分より留萌カントリークラブにおいて、今年度第1回目の例会を開催いたします。今回は関野愛好会顧問杯です。多数の参加をお願いします。

3分間情報

会員研修委員会 河部副委員長
ロータリーとインターネット -その8-
E-クラブの現況 その3
発足当時は、他のサイバー・クラブ会員以外のメイクアップは受け付けないという条件で認可されたはずですが、その条件もいつの間にか反故になってしまいました。サイバー・クラブ

はニュー・モデル・クラブとして認められたクラブですから、その影響を他の正式なクラブに及ぼすことはできません。もっとも、2004年以降は定款の変更によって、メイクアップの対象になることが正式に認められるようになりましたが、「平均30分の相互参加型の活動」には明らかに違反しているのは間違いのない事実です。

サイバー・クラブの会員に質問しましたが、3ヶ月に12時間の社会奉仕活動をするという条件の存在そのものを知らない模様です。

昨年1年間に約15,000人のメイクアップがあったと誇らしげにJRICのMLに投稿したE-クラブの会員がいますが、現在のようない加減なE-クラブの運営状況や貧弱なウェブサイトのコンテンツでは、重病で長期入院をしている等の特殊な場合を除いて、サイバー・クラブにメイクアップする必然性は全くありませんし、お勧めもしません。前後2週間のメイクアップ期間を有効に活用すれば、多くのクラブが存在する日本においては出席補填は十分可能だと思います。

(「ロータリー源流」から)

 ニコニコBOX.....

- 歓びも中位なり、金婚式。後期高齢者の冠もついてきて 平井会員
- DVDをいただきました 田中、平間、関野会員
- 澤井家葬儀お礼 澤井篤司様

前 回	903,500円
今 回	63,000円
累 計	966,500円

国際ロータリー第2510地区第1グループ 合同研修・交流会タイムスケジュール

12:45	登録開始	
1:00	開 会	司会 総務副委員長 長谷川 裕 昭
	点 鐘	RI2510地区第1グループ・ガバナー補佐 舟 橋 隆 宏
	国家斉唱	
	ロータリーソング「奉仕の理想」	
	物故会員に対し黙禱	
	開会挨拶	合同研修・交流会実行委員長 石 川 士 史
	歓迎挨拶	羽幌RC会長 有 澤 護
	来賓クラブ紹介	舟橋ガバナー補佐
	ガバナー補佐挨拶	舟 橋 隆 宏
1:20	各クラブ事例発表(1クラブ10分程度)	
	ガバナー補佐講評	
2:50	記念講演	講師 金 田 幸太郎 氏
	講演謝辞	有澤羽幌RC会長
	次期ガバナー補佐紹介	舟橋ガバナー補佐
	次期開催地クラブ会長挨拶	
	ガバナー補佐へ記念品贈呈	
	閉会挨拶	
3:00	点 鐘	舟橋ガバナー補佐
	諸事お知らせ	合同研修交流会SAA 加 藤 隆 一
	※懇親会会場準備15分程度(休憩時間に会長幹事会を別室にて開催)	
3:25	交流会開会	
	開会挨拶	懇親委員長 佐々木 武
	乾 杯	前ガバナー補佐 澤 田 茂 様
	懇親交流会	
	万歳三唱	次年度ガバナー補佐 大 西 道 祥 様
	ロータリーソング「手に手つないで」	
4:50	閉会・散会(交流会1時間25分)	



プログラム・・・・・・・・

「雑誌月間にちなんで」

ロータリーの友の歩み

1952年4月に開催された第60区の大会で、新しい雑誌をつくることになりました。7月に迎える新年度(1952～53年度)から、日本の地区が、東日本と西日本の2つに分割されるのが決定されていましたので、この地区大会は特別なものでした。

ここで、いくつかの問題が話し合われ決められました。その中に、日本の2地区で共通の雑誌を発行するとの決定がありました。これまで共に活動してきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有化するための機関誌として、新しい雑誌が企画されたのです。

その後、何回か会合が持たれ、様々なことが話し合われましたが、新しい雑誌について本格的に色々なことが決められたのは、同年8月16日岐阜市の長良川湖畔にあった大竹旅館での会合においてです。「ロータリーの友」という名前もこの時に決められました。

またこの会合では、新しい雑誌を縦組みにするか横組みにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行なったところ、2対1の割合で、横組みが採用されるようになりました。戦後10年も経っていなかったという時代背景を考えると、この結果は当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることの出来るエピソードです。

岐阜での会合で、広告をとる事を決定したものの、当初は発行部数が3300部にすぎなかったこと、また戦後の混乱が少し落ち着いたもののまだまだ経済的に厳しかったこともあり、広告のスポンサーを見つけることは容易なことではありませんでしたが、創刊に携わったロータリアンが自ら走り回り、苦勞して広告を取ったという逸話が残っています。

創刊は1953(昭和28)年の1月号です。最初、横組みでスタートした「ロータリーの友」ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合

の悪い欄が始まり、また横組みの方が読み易い内容のものもあり、これらを縦組みで入れる事になりました。ページを開くと、横組みの中に突然縦組みのページが出てきて読みにくいということで、1972(昭和47)年1月号から左から開けると横組み、右から開くと縦組みの現在のようになりしました。この時の表紙は、陣羽織で、横組みは前から見たところ、縦組みは後ろ方見たところ、というように、両面表紙の特徴を生かした面白いものになっています。

その後、1年間の試験期間を経て、国際ロータリー公式地域雑誌(現ロータリー地域雑誌)になりました。公式地域雑誌の用件はいろいろと定められており、また時代とともに多少変化しています。要件の1つに、毎年、年度の始まる7月号には「R I 会長の写真を掲載する、というものがあります。試験期間の始まった1979年の7月号がR I 会長の写真を表紙に掲載した最初。ジェームス・ボーマーR I 会長です。

したがって、日本で2人目の会長である向笠廣次氏(1982～83年度)は表紙になっていますが、それ以前にR I 会長に就任した東ヶ崎潔氏(1966～1967年度)は、R I 会長としては残念ながら表紙に載っていません。ただし、それより早くガバナー時代の1957(昭和32)年8月号に他のガバナーとともに登場しています。

はじめ表紙以外はモノクロでしたが、1986年から「ロータリー・アット・ワーク」(横組みの写真ページ)のトップの取材ページ(当時は同欄の2～3ページが取材記事)をカラーにしました。これを記念して、第266地区(現、第2660地区・大阪府)のフィリピンのネグロス島での医療奉仕に同行取材し、3月号に掲載したのがカラー記事の最初です。

さらに縦組み横組みの巻頭各8ページを2色刷りにしました。写真のページをカラーにし、2色刷りのページを入れると、当然印刷費は高くなりますが、この費用の捻出のために、用紙の厚さや種類を変更して用紙代を節約するなどの工夫をしています。時代の変化に合わせ、カラーページを増やしていきました。

創刊50周年を迎えるにあたり、これまでの良

い伝統は継承しながら、新しい50年のスタートに相応しい新鮮な「ロータリーの友」とはどのようなものか、ロータリーの友委員会とロータリーの友編集者として2001年秋から検討に入り、2002年7月号から紙面を一新しました。サイズをB5判からA4変型判に変更。用紙もカラー写真がきれいに出るようにそれまでより少し白い紙に変えました。(2006年7月号から更に白い色の用紙に変更)。またカラー写真のページを巻頭にもってくるなどして、親しみやすい「ロータリーの友」を目指しました。このときから事務所内でのコンピューター編集に切り替え、より自由な誌面づくりができるようになりました。

2003年、印刷の一部の工程をはぶいて印刷コストを抑え、全ページのカラー化が実現しました。このころになると編集者も少しずつコンピューター編集に慣れ、誌面にもより変化をつけられるようになってきました。「ロータリー地域雑談」の要件の一つに、「毎号、『THE ROTARIAN』から指定された記事を翻訳して掲載しなければならない」というものがあり、これらの記事を「R I 指定記事」と呼んでいます。R Iからの原稿はEメールで届きましたが、写真はアメリカから航空便で送られてきましたので、締め切りに間に合わず、『THE ROTARIAN』と同じ記事を同じ月に掲載することはできませんでした。『THE ROTARIAN』の編集部と編集の手順を話し合い、さらにR Iの中で準備が整って、インターネットを利用して、ロータリー地域雑誌専用のサイトから、写真やレイアウトを、即日、入手できるようになりました。そのおかげで、2004年1月号からは、「R I 指定記事」が、『THE ROTARIAN』と同じ月に掲載できるようになりました。また、どの記事が「R I 指定記事」なのかひと目でわかるようにしてほしい、という読者の意見に応じて、2004年11月号から「R I 指定記事」のロゴをつくり、入れています。

記事も少しずつ変わってきています。ロータリーについて自由に意見を交換できる欄として、「言いたい 聞きたい」を2002年7月号から新設し、また、同じクラブ活動の投稿記事であり

ながら、写真がメインか、文章がメインかで横組みと縦組みに分かれていた「ロータリー・アット・ワーク」と「ロータリー・レポート」を縦組みにまとめ、「ロータリー・アット・ワーク」という名称で統一しました。

2004年11月号からは、毎月1人ずつロータリアンを紹介する「風紋」が縦組みに登場。2007年8月号からは毎月1クラブを紹介する「手に手くらぶ探訪」が始まりました。

創立50周年を迎えるために『ロータリーの友』をリニューアルしようと、企画を立てていたとき出てきたのが、新しいメディアのインターネットとどのように共存していくかという課題です。そこで、『ロータリーの友』のホームページを開設して、メディアの特性を生かしたコンテンツを入れ、印刷物である『ロータリーの友』と共存、住み分けをして、日本のロータリアンの皆さまに、より早く、より幅広く、より便利に情報を届けるようにしようということが決められました。それにしたがって2003年7月1日、『ロータリーの友』ホームページが誕生しました。ここでは、『ロータリーの友』誌の記事の紹介、全国のクラブの例会一覧表、また、国際大会や国際協議会のレポートなど、インターネットの速報性を生かしたニュース、データや基本的な知識を提供してきました。

2006年秋、ガバナー会から、rotary.or.jpのドメインを移譲され、ロータリーの友委員会で検討を重ねた結果、名称を『Rotary Japan』に変更、画面をリニューアルして、2007年3月から新しい名前で情報を提供しています。

これを機に、ロータリアンだけではなく、もっと一般の人たちにもロータリーを知ってもらい、「ロータリーイメージ向上」のための広報ツールとして、『Rotary Japan』を活用しようと、2007年12月末から日本語のコンテンツを変更して、一般向けにロータリーとその活動を紹介する欄を新設しました。

『ロータリーの友』『Rotary Japan』は、時代の変化と、ロータリアンのニーズを反映しつつ、これからも歴史を刻み続けることでしょう。

(「ロータリーの友」4月号から)